

<西方地域>

■小倉川のかっぱ

うつのみやがた
宇都宮方は浮き足立ち、ほうほうの体で川原へ逃げ帰った

しょうへい
将兵たちは、何者かが水の中から足を引っ張ったり、馬の足
にしがみつく者があったと、口々に^{きょうふ}恐怖を話し合った。

みながわがた らんぐい は なわ
皆川方も、乱杭や張り縄のことは知っていたが、水中への
ふくへい
伏兵は考えていなかったなので、^{ふしぎ}不思議に思うばかりであった。

こくらしゅぜん せきぜん
これこそは小倉主膳の積善の結果であって、^{しゅぜん}主膳が若い頃
に助けた^{かっぱ}河童が仲間を連れて^か駆けつけ、以前、^{しゅぜん}主膳に助けられ
た^{おんぎ}恩義に^{むく}報いたというのである。